

## 横浜港への客船寄港状況について

### 1 客船寄港状況

#### (1) 平成 24 年の寄港予定数

平成 24 年は、日本船と外国船の合計で 142 隻程度になる見込みで、前年より大幅に増加し、10 年連続の寄港数日本一の見通しです。

また、外国船は過去最高の 28 隻になる見込みです。

年	横浜		東京		大阪		神戸		博多		長崎		那覇	
19	13	123	2	29	9	21	17	100	0	15	37	44	26	30
	110		27		12		83		15		7		4	
20	10	120	4	14	7	22	23	97	25	35	25	31	51	56
	110		10		15		74		10		6		5	
21	21	126	10	23	12	22	25	100	26	42	45	49	50	57
	105		13		10		75		16		4		7	
22	19	122	3	22	6	16	22	103	61	84	39	54	46	52
	103		19		10		81		23		15		6	
23	9	119	0	14	5	15	7	100	26	55	17	21	37	53
	110		14		10		93		29		4		16	
24 (見込)	28	142	6	20	21	31	25	113	85	111	64	65	66	87
	114		14		10		88		26		1		21	

※24年は各港HPから算出（7月末現在の予定数）  
※上段：外国船、下段：日本船

#### (2) 外国船の寄港傾向と今後の見通し

横浜港では、従来からのワールドクルーズや日本船によるクルーズに加え、日本人を対象にした外国船による横浜発着クルーズが、カジュアル性と日本船と比較して廉価なため、人気が高く、来年以降も増加傾向にあります。

なお、急増している中国発着のアジアクルーズは、地理的な要因から日本では九州地区への寄港が中心となっており、関西や関東へ多くの寄港は望めません。

### 2 今後の課題

#### (1) 外国船の大型化

近年、欧米を中心に客船の大型化が急速に進む中で、世界で就航している客船の中で 20 隻ほどは、ベイブリッジの通過に課題があります。これらの客船は、ベイブリッジ外側の貨物船用岸壁で受け入れることとなりますが、通関や出入国審査などの機能面での課題に加え、鉄道駅へのアクセス、乗下船客に与えるイメージ、さらには見学に訪れる市民の安全性などから課題があります。

#### (2) 客船用岸壁の不足

客船寄港数の増加や、新港ふ頭の老朽化もあり、春から秋にかけての観光最盛期には船会社などの希望通りに客船用岸壁へ配船できないケースが生じています。

### 3 対応策

当面の対策として、大型化には関係機関の協力を得ながら運用面で可能な限り工夫を行うとともに、岸壁の不足については、船会社などとの日程調整による効率的な配船により寄港促進に努めてまいります。

また、今回改訂する港湾計画の中で、客船の受入体制の強化策を検討していきます。